

## 令和三年度 愛媛県立新居浜西高等学校 第二学期終業式 校長式辞 (全日制)

皆さんおはようございます。新型コロナウイルス感染症対策のために、学校生活に様々な制約が生じる中、二学期も充実した学校生活が送れました。私は始業式で、二学期は学校生活に「勇気」の必要な場面や行事がたくさんあるから、勇気をもって何でも楽しんでくださいと話しました。二学期の学校生活は素晴らしかったですね。何ととっても運動会。素晴らしい応援演技をはじめ、心に残る運動会ができたと思います。特に各団のグループ長の行動には泣かされました。グループ長さん、ありがとう。そして、たくさんの先生方が訪れた学校訪問。本校のICT教育とレベルの高い授業、美しい環境と挨拶のよくできる素直な生徒の集団に、先生方も感心されていました。そして写真、文芸、囲碁をはじめ、文化部が活躍した高文祭。優れた感性とプロの技に出会えた芸術鑑賞会。充実した旅行の様子がHPで伝わってきた修学旅行。皆さんの、「勇気があれば何でも楽しめる」が伝わってきた二学期でした。

そしてもう一つ、「お昼の読書タイム」。読書は、私が西高でぜひやりたかった教育活動の一つです。昼休みに勉強をちょっとだけ横において、読書に集中する皆さんの姿に私は感激しています。だから今日は、西高の図書館で私が出会った素敵な話をしたいと思います。この話は図書館報にも掲載しますが、読書するといいいことあるかもって思える話です。タイトルは『図書館の神様』です。

ある図書館での話。谷川俊太郎の詩集を見つけた。詩は好きなように解釈して読めばいい。それも詩の魅力の一つ。だから一つの詩の解釈にも時間がかかる。まあ、詩集なんてものは立ち止まりつつゆっくり読むのが当たり前。そう思いながらいったん文庫本を閉じようとして、本に紐がついていないことにがっかり……。というところで、私は「ちょっといい話」に出会ってしまった。今からその図書館で出会ったちょっといい話をしようと思う。

葉が欲しいなあと思いつつ、その文庫本を閉じようとして、ふと本の中ほどに小さな紙が挟んであるのに気が付いた。紙は幅1cm、長さ5cmくらいの長方形の白い紙。10cmほどに切った紙を二つ折りにして丁寧に糊付けして、ちょっとだけ厚く固く作ってある。糊付けされた内側には落書きのような鉛筆の跡もうっすら見える。そうして紙の端の方に、今度はしっかりとした鉛筆の濃さで「しおり」と女の子らしい文字が書かれてあった。その詩集をこの図書館で借りた文学少女もまた、谷川さんの詩集を立ち止まりながら読んだのだろう。そうして図書館に本を返す時、自分が作った葉を挟んだまま返却してしまったのだろうと、思わず微笑んでしまった。でもその少女の忘れ物は、おかげさまで大いに役立った。ところが、その少女の忘れ物に感謝しながら、詩集を行きつ戻りつして読んでいるうちに、私はこの葉は忘れ物ではないのではないかと思い始めたのだ。少女はわざとこの葉を挟んだまま、この本を図書館に返したのではないだろうか。そうとしか思えなくなってきたのだ。

裏にうっすらと落書きのあるような、いらぬ紙で葉を作って本を読み始めるのは少女の日常だった。いつものように紙を折り、自分だけの葉を作ってゆっくりと本の世界に浸った少女は、返却のために図書館にやってきた。返却の手続きをするときに「My葉」の存在に気付いた少女は、いつものように葉を捨てて本を返そうとして、ふと指を止めた。この詩集はゆっくり立ち止まりながら読むべきもの。それならば次にこの本を借りる人は、葉があったほうが良いに決まっている。そんな少女の思いやりは、少女をして葉を捨てることをやめ

させ、葉に「しおり」と鉛筆で書かしめた。「この葉がごみと間違えて捨てられませんように」「次にこの本を手を取った人に葉として使ってもらえますように」それは、次に借りる人への思いやりと、自分自身に役立ってくれた葉への感謝の気持ち。自分だけが使うための葉だったのなら、手作りの葉にわざわざ「しおり」なんて書くはずがない。

これがこの「しおり」から私が勝手に作り上げたストーリーである。では、なぜこの小さな紙切れ一枚で私はここまで感動して、想像してしまったのか。それは、その葉を挟んで本を閉じるたびに私の目に飛び込んできた谷川俊太郎詩集のタイトルのせいである。そのタイトルは……、『これが私の優しさです』だった……。

あの文学少女がくれた優しさは、ひっそりとした図書館の中で、静かに、そして確実に次の人へと手渡されている。みずみずしい心など枯れてしまいそうな五十過ぎのおいさんの心にも、優しい図書館の神様が現れてくれました。

一、二年生の皆さん、「お昼の読書タイム」を大切にしてください。5分間は、必ず読書を楽しみましょう。そして、予鈴が鳴ってもあと5分、静かに読書をしてください。予鈴が鳴って、板書をしたり、移動をしたりする人は、読書している人の邪魔をしないよう気を配りましょう。それが、あなたの優しさです。素敵な読書の神様に出会ってくださいね。三年生の皆さん、受験の神様もきっといますよ。あと少し。もう少し。三年生一人一人が、素敵な受験の神様に出会えることを祈っています。頑張りましょう。

(令和3年12月20日)